

< あなたの治療について >

呼内-Atezolizumab-胸腺癌-q3w

今回の治療は、Atezolizumab という治療法で、テセントリク（ATZ）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
①	テセントリク (抗がん剤) 1200mg/body	点滴 初回 60 分 2 回目以降 30 分		お休み

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎特徴的な副作用について

テセントリクにおける

* 免疫チェックポイント阻害剤における副作用は、別添の資料を参照して下さい。

* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【テセントリク】

〔間質性肺疾患〕発熱、咳、息苦しい、息切れ

〔肝機能障害、肝炎〕疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振、嘔吐、発熱、上腹部痛、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる

〔大腸炎〕発熱、お腹が張る、腹痛、水のような便が出る、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色）

〔重度の下痢〕何度も水のような便が出る、下腹部の痛み、体がだるい、発熱

〔肺炎〕強い腹痛、背中の痛み、お腹が張る、吐き気、嘔吐、体重減少、喉が渇く、尿量が増える、皮膚が黄色くなる、油っぽい下痢が出る

〔1型糖尿病〕体がだるい、体重減少、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える、吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸

〔甲状腺機能障害〕疲れやすい、まぶたが腫れぼったい、寒がり、体重増加、いつも眠たい、便秘、かすれ声、脱毛、動悸、脈が速くなる、手指のふるえ、体重減少、汗をかきやすい、イライラする、微熱、吐き気、首のはれ、不眠、眼球突出、胸がドキドキする

〔副腎機能障害〕体がだるい、意識の低下、意識の消失、血圧低下、吐き気、嘔吐、腹痛、食欲不振、発熱、冷汗が出る、顔面蒼白、手足が冷たくなる、手足のふるえ

〔下垂体機能障害〕頭痛、見えにくい、体がだるい、疲れやすい、食欲不振、意識の低下、血圧低下、性欲がでない、無月経、喉が渇く、体重減少、皮膚の乾燥、水を多く飲む、尿量が増える

〔脳炎、髄膜炎〕発熱、まひ、意識の低下、頭痛、吐き気、嘔吐

〔神経障害〕手足のしびれ、痛み、力が入らない、筋委縮、手足のふるえ、両側の手や足に力が入らない、歩行時につまずく、階段を昇れない、物がつかみづらい、手足の感覚が鈍くなる、顔の筋肉がまひする、食べ物飲み込みにくい、呼吸が苦しい

〔重症筋無力症〕まぶたが重い、上まぶたが下がる、物がだぶって見える、筋肉の疲労感

〔重度の皮膚障害〕皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、関節や喉の痛み

〔腎機能障害〕尿量が減る、むくみ、体がだるい、発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛

〔筋炎〕筋力の低下、筋肉の痛み・はれ・熱感

〔横紋筋融解症〕手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる

〔心筋炎〕体がだるい、息苦しい、息切れ、動悸、胸の痛み、むくみ

〔血球貪食症候群〕発熱、発疹、意識の低下、けいれん、異常な行動、リンパ節（首、わきの下、股の付け根など）のはれ、体がだるい、出血が止まりにくい

〔インフュージョンリアクション〕全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい、呼吸困難、意識の低下、意識の消失、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、寒気、嘔吐、咳、めまい、動悸

〔発熱性好中球減少症〕突然の高熱、寒気、喉の痛み

◎上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。